



鎌ヶ谷市国際交流協会広報誌

第72号

2011年(平成23年)7月1日
発行：鎌ヶ谷市国際交流協会
〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1
TEL 047-445-1141 (内550)
FAX 047-441-9400
http://www.kifa.gr.jp

2011年度KIFA総会開く、茂野体制2年目へ

会員増へ魅力的事業を展開

鎌ヶ谷市国際交流協会（KIFA・茂野昭会長）の2011年度総会が5月15日（日）、鎌ヶ谷市総合福祉保健センターの大会議室で開かれました。

就任2年目を迎え、あいさつに立った茂野会長は、「鎌ヶ谷市は国際化の進展に伴い、外国人の方々が暮しやすい街づくりを目指しています。これからも、KIFAの果たす役割は増すものと思われまます」と新たな事業展開の必要性を強調した。続いて来賓を代表して清水聖士市長からは別稿の祝辞をいただきました。（2面）

総会は岡本靖子副会長の開会の辞に続いて、出席された理事、法人・団体会員のみなさんが茂野会長より紹介されたあと、KIFA事務局長で市企画財政課長・宗川洋一さんの司会により、顧問の田澤進二郎さんを議長に選出し、議案審議に入りました。

2010年度の「事業報告」「収入支出決算並びに特別会計収入支出決算」について、各担当部会、執行部から説明があり「監査報告」のあと、各議案の一括審議がなされ拍手をもって承認されました。続いて2011年度の「事業計画（案）」とそれに伴う「収入支出予算（案）並びに特別会計収入支出予算（案）」について、各担当部会、執行部から説明が行われ、質疑応答のあと、いずれも承認されました。

今年度は役員改選がなく、以下の理事団体の担当メンバーが交代されました。

鎌ヶ谷市スカウト連絡協議会・高桑明さん、鎌ヶ谷市子ども会育成会連絡協議会・武波憲子さん、副市長・北村真一さん、市総務企画部長・岩佐昇さん。（2面に役員名簿を掲載）

ワカタネ・ロングステイ と語学夜間講座取りやめ

2月にニュージーランドのクライストチャーチで起きた地震により日本人語学留学生が被災し、海外派遣の安全管理問題が提起されました。KIFAとしても、例年のワカタネ・青少年ロングステイとトライデント高校・鎌ヶ谷高校との交換留学を取りやめにしました。また3月の東日本大震災・福島原発事故に関わる電力事情など



総会であいさつする茂野会長

学生留学の取りやめ、残念です 茂野会長あいさつ

昨年5月に会長に就任し、この1年協会の運営を行ってきました。昨年は6人の学生をニュージーランドのワカタネへ派遣するロングステイを実施しました。帰国報告会に出席し、「大変貴重な体験を積むことができた」との報告を聞き、うれしく思ったところです。

そして、今春はワカタネから交換留学生として2人の学生を受け入れる準備をしていたところ、2月22日にクライストチャーチで地震が発生し、日本人語学留学生たちが被災しました。また3月11日には東日本大震災が発生しました。ワカタネ市と連絡を取り合い残念ながら急遽、交換留学は取りやめとなりました。準備されていた学生さんには、申しわけなく思っています

一方、イベントとしては箱根への交流バスツアー、金八先生のシナリオ作家・小山内美江子さんの講演会などを行ってきました。鎌ヶ谷市は成田高速線による国際化の進展に伴い、外国人の方々が暮しやすい街づくりを目指しています。KIFAの果たす役割は大きくなって行くと考えています。（要旨）

を考慮し、夜間講座になっていた「英語B」の開講を取りやめにしました。

草の根国際交流の大切さ実感

来賓代表・清水聖士市長祝辞

「K I F A の皆さんには、日ごろからボランティア活動として、英会話サロン、スマイリーキッズ、通訳ボランティアなどご努力いただき、頭が下がる思いです。2月にニュージーランドで、3月には日本で大震災が発生しました。いま国中が被災地への励ましと復興支援に力を合わせています。市民から寄せられた鎌



ヶ谷市の東日本大震災に対する義援金は2,000万円を超えています。ニュージーランドの姉妹都市・ワカタネのトライデント高校からも募金（義援金）活動をしたとの報告をうけています。これも日ごろの草の根交流あってのことだと考えています。

感銘を受けたのは米海兵隊の協力です。力強い援助活動をされ、地元の人々から大いに感謝されていました。イスラエル、中国など世界の国々からも支援がありました。日頃の外国との付き合いが大事だと改めて思いました。普段の市民による草の根交流の重要性も改めて認識されています。その意味でも、今後ともK I F A の活動に期待するところ大であります。」(要旨)

総会に出席の皆さん



赤十字社宛に送付されました。」

これより先の3月27日には、ワカタネ市から鎌ヶ谷市へメールが届いています。「トライデント高校において、東日本大震災への募金活動を実施。今のところ2,000 NZドル（日本円で127,200円）義援金が集まった、との報告を受けました。」

* * *

K I F A においても、クライストチャーチで発生した地震の後、広報誌とホームページで救援協力の呼び掛けを行い、事務局に募金箱を置き、集まった義援金を日本赤十字社を通じて送付しました。(総会の質問と回答)

茂野会長 青少年の国際交流体験へ 思いを込めて100万円寄付

茂野昭会長から昨秋、K I F A 活動を通して将来を担っていく青少年の事業に役立ててほしいとの思いを込めて、協会に100万円の寄付がなされました。これは会長自身が第43回（平成22年度）食品産業功労賞を生産部門で受賞したこと（KIFApLaza69号既報）を記念して、市内の若い人たちの、国際文化交流の体験学習の一助になればという思いから寄付されたものでした。

協会では会長の意思を活かすものとして、平成16年に創設されて以来、これまで活用機会がなかった「留学基金」会計に積み立てることになりました。今後、基金創設の精神に沿って検討、実行計画を進めることとなります。

ワカタネ トライデント高校から 届けられた日本への思い

ニュージーランドの姉妹都市・ワカタネのトライデント高校から、K I F A と茂野会長あてに、一日も早く日本が復興の道を歩むことができるようにとの願いとともに、東日本大震災へのお見舞いのメールが届きました。

「トライデント高校では、2月に起きたクライストチャーチと3月に起きた東日本大震災により、ニュージーランドと日本の双方で甚大な被害があったことに大変ショックを受け、トライデント高校生によってMUFTI DAY（制服を着ないで慈善のために寄付する日）が設けられました。日本で困っている学生のために使って欲しいと、被災者のために義援金が募られ、日本

2011年度鎌ヶ谷市国際交流協会役員名簿（敬称略）

役職	役員氏名	所属団体
会長	茂野 昭	法人会員（茂野製麺（株））
副会長	岡本 靖子	個人会員
〃	高橋 修司	鎌ヶ谷市商工会
会計	酒井 哲郎	個人会員
〃	長南 勇	個人会員
理事	御代川 泰久	鎌ヶ谷市体育協会
〃	高桑 明	鎌ヶ谷市スカウト連絡協議会
〃	武波 憲子	鎌ヶ谷市子ども会育成会連絡協議会
〃	久野 義春	鎌ヶ谷市芸術文化協会
〃	中野 洪	鎌ヶ谷市自治会連合協議会
〃	佐藤 宗之	鎌ヶ谷青年会議所
〃	柏崎 育造	鎌ヶ谷ロータリークラブ
〃	藤田 次男	鎌ヶ谷ライオンズクラブ
〃	太田 侑子	鎌ヶ谷国際文化交流会
〃	勝田 眞澄	千葉県立鎌ヶ谷高等学校長
〃	小玉 秀史	千葉県立鎌ヶ谷西高等学校長
〃	眞田 学	鎌ヶ谷市小中学校校長会（鎌ヶ谷中校長）
〃	北村 眞一	鎌ヶ谷市副市長
〃	皆川 征夫	鎌ヶ谷市教育委員会委員長
〃	川西 八郎	鎌ヶ谷市教育委員会教育長
〃	岩佐 昇	鎌ヶ谷市役所総務企画部長
監事	私市 富士弥	法人会員（私市醸造（株））
〃	栗田 朝治	法人会員（ニッポー（株））
交流部会長	石関 博康	個人会員
研修部会長	飯田 文夫	個人会員
広報委員長	関矢 忠良	個人会員
青少年委員長	桶本 栄	個人会員

事務局長 宗川洋一 市企画財政課長 担当職員 青木真也
事務局員 寺坂敬子・三塚敏子

2011年度 法人会員 団体会員の紹介

〈法人会員〉

- ・東葛食品(株) ・茂野製麺(株) ・新和設備(株)
- ・(有)岡田産業 ・皆川不動産(有) ・(株)永井建設
- ・那須設計工務(株) ・鎌ヶ谷造園土木(株)
- ・学校法人一色学園 ・(株)千葉銀行鎌ヶ谷支店
- ・鎌ヶ谷梨ワイン・ブランデー(株)
- ・(株)アメリカンランゲージスクール鎌ヶ谷校
- ・私市醸造(株) (監事) ・ニッポー(株) (監事)
- ・森はり灸治療院 ・(株)エステフーズ ・(株)仁陣
- ・(医)爽歯会みちのべ歯科医院
- ・(株)東京パッキング ・(株)タニマ (新規)

〈団体会員〉

- ・鎌ヶ谷市商工会 ・鎌ヶ谷ライオンズクラブ
- ・鎌ヶ谷青年会議所 ・鎌ヶ谷市自治会連合協議会
- ・鎌ヶ谷市庭園業組合 ・千葉県立鎌ヶ谷高等学校
- ・千葉県立鎌ヶ谷西高等学校・鎌ヶ谷市小中学校長会
- ・鎌ヶ谷市体育協会 ・鎌ヶ谷市スカウト連絡協議会
- ・鎌ヶ谷ロータリークラブ
- ・鎌ヶ谷市子ども会育成会連絡協議会
- ・鎌ヶ谷市芸術文化協会 ・鎌ヶ谷国際文化交流会

2011年度総会における質問と要望

- ① K I F A は市から補助金を貰っている団体です。事業ごとに補助金がどう使われているか、分るような決算報告にして欲しい。
- ② ニュージーランドの地震について、どのような支援活動をしたのか。
- ③ 寄付を得て増えた留学基金の活用の仕方については具体的な案があるのか。
- ④ 創立以来20数年を経て、マンネリになっているのではないかと。より市民に向けた事業計画を考えて欲しい。
- ⑤ ホームステイ、ホームビジットについて随時検討するとなっているが、受け入れ組織はあるのか。
- ⑥ 若いボランティアや現役世代が関わることができるボ

ランティア活動を推し進めていただきたい。

●執行部からの説明

- ② クライストチャーチの地震義援金募集については、広報誌、HPで告知を行い、集まった義援金は日本赤十字社を通じて送った。
- ③ 留学基金については両国で地震災害があつて、今年は活動を見合わせなければならない事態となった。じっくり時間をかけて検討したい。
- ④ 今年度は（会員の増員が期待できるような）より魅力的な事業を検討していきたい。

◆執行部インタビュー

総会后、広報委員会では執行部にインタビューし、総会でも出された要望も踏まえ、2年目への抱負・課題等について語っていただきました。

◆K I F A 活動について

K I F A 活動の中心は部会活動が担っている。20数年経ってマンネリ化は否めない。部会の枠を超えて事業内容の検討していきたい。

◆組織改革

4部会員が参加する合同検討会を早急に開催し、組織・事業の再検討を行いたい。横断的なアイデアを募って、もっと市民にアピールすることが必要で、魅力ある事業を目指して、できることから実行していきたい。

◆会員減少・高齢化問題

ボランティア会員（部会員）を増やすにはどうしたら良いか。女性の社会進出が目覚ましい時代に合わせたアイデアが必要。（会長）

《2011年度運営委員会メンバー》

<執行部>会長・茂野昭、副会長・岡本靖子、高橋修司、会計・酒井哲郎、長南勇<部会・委員会>広報委員長・関矢忠良、副委員長・平田真裕美、交流部会長・石関博康、副部会長・信夫 稔、研修部会長・飯田文夫、副部会長・小河原大蔵、安達政美、青少年委員長・桶本栄、副委員長・花岡聡美、林 紅（敬称略）

2011年度事業計画

5月15日の総会において、承認された2011年度の事業計画は以下の通りです。事業の詳細が決まりましたら、会員の皆様には文書で、市民の皆さんには市の広報誌、協会のホームページでお知らせします。積極的なご参加をお願いします。

◆広報事業

- ・「KIFaplaza」発行（年4回）
- ・イベント事業の取材・編集
- ・ホームページ更新

◆交流事業

- ・K I F A パーティ
- ・交流バスツアー
- ・外国家庭料理講習会・親子交流会
- ・交流カフェ
- ・世界を知る会

◆研修・講座事業

- ・外国語研修講座の開催（英語A、ハングル、中国語）

- ・外国人日本語講座
- ・英会話サロン（3回を予定）
- ・子ども英会話講座

◆派遣事業

- ・市内諸団体、教育団体へのボランティア（通訳・翻訳、外国人講師派遣、日本語講師の学校派遣など）

◆海外派遣・受け入れ事業

- ・ホームステイ・ホームビジットの受け入れ（随時）
- ・ロングステイ・交換留学事業
（今年度は両国の地震災害などの影響により派遣については取りやめになったが、今後の派遣については関係者で打合せ、検討する）

◆近隣諸団体との連携・交流

- ・国際交流に関する諸団体との連携・協力事業
- ・東葛地区国際交流協会連絡協議会及び他市との交流
- ・千葉県国際交流連絡協議会への参加
- ・鎌ヶ谷市姉妹都市交流委員会事業に協力
- ・鎌ヶ谷市多文化共生推進事業に協力

2011年度「語学研修講座」開講式

2011年度の「語学研修講座」(研修部会)の合同開講式が5月18日(日)午後2時から、市総合福祉保健センター6階の大会議室で開かれました。今年度は東日本大震災に関わる電力事情などから、夜間講座の「英語B」の開講を取りやめ、英語A(受講生19人)、中国語(同19人)、ハングル(同26人)の3講座の合同開講式になり、3人の講師、受講生64人が出席しました。連続受講生も何人もいて、「今年もよろしく」と笑顔であいさつを交わすグループもいます。初参加の人たちは少し緊張しながら、新しいテキストを開いて熱心に見ています。

茂野昭会長、飯田文夫研修部会長からあいさつがあり、受講上の注意説明のあと、全30回の授業の第1回講座・オリエンテーションに移りました。

*今年度の講座会場・開催曜日と授業時間

「英語A」はアメリカ人のKristen Cother先生です。(写真上)

水曜日 13:30~15:00 北中沢コミュニティーセンター

「中国語」は胡 丁毅 (Fu Dingyi) 先生です。(写真中)

火曜日 10:00~11:30 鎌ヶ谷市図書館

「ハングル」は金 英美 (Kim Youngmi) 先生です。(写真下)

水曜日 10:00~11:30 くぬぎ山コミュニティーセンター



*受講生に参加の動機を聞いてみました。

「1年では進歩が見られなかったので、2年目に挑戦」という頑張る人、「ボケ防止の頭の体操に」という超熟年者から、「ドラマが好きなので」という韓流派、「旅行に行つて現地の人と話したい」という世界の旅を楽しみたい女性まで、受講動機はさまざまのようです。

ハングルの金英美先生が素敵なことを言っていました。

「恋と語学学習は途中であきらめると後悔します。」

にほんご講座 こうぎ **初めての人も安心して楽しく学べます。**
はじ あんしん たの まな
にほんご おぼ とも
日本語を覚えて友だちをつくろう!

◎学習内容 がくしゅうないよう にほんご しよきゅう **みんなの日本語初級 I, II**
ちゅう じょうきゅう どっかい ぶんぼう じよし たんぶんかんせい べつしやうにんずう せい
中・上級読解・エッセー読解・文法(助詞、短文完成など) レベル別少人数グループ制

◎場所: ぼしよ ちゅうおうこうみんかん はつとみえき **中央公民館(初富駅のそば)**

◎日程: にっつい だい き すいようび ぜん かい ざんてい
第1期…5月11日~7月13日の水曜日 全10回(7月は暫定)

第2期…9月7日~11月30日の水曜日 全12回

第3期…12月7日~3月21日の水曜日 全12回

◎時間: じかん いこう けいかくていでん じっし ちゆうし けつてい
19:20~20:50 (7月以降は計画停電によって、実施か中止かを決定します。)

〈鎌ヶ谷市国際交流協会が主催するこの講座について〉

- ・日本語講師養成講座を受講したボランティアが指導しています。
- ・すでに養成講座受講済みの指導仲間を求めています。
- ・また日本語を学習したい外国人をご存知の方もぜひご連絡下さい。
- ・短期滞在者の受講も受け入れています。
- ・申し込みの詳細は事務局 047-445-1141(内線550) 月~金の9:00~16:00まで
- ・E-mail kifa-event@siren.ocn.ne.jp ・または電話して学習日に直接会場へ

私はカンボジアの「とりこ」になった

国際ボランティアに参加して

根本 晴美 (市内・くぬぎ山在住)

2006年と07年に訪れ、とりこになった「カンボジア」。そして、重要だと感じた「教育」。私は、この二つをキーワードにして、NGO団体を探していました。

ある日、「これだ」とJHP (JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER・学校をつくる会) を見つけたときには、その翌日が書類提出期限でした。幸いにも職場の隣駅に事務所があることを知り、出勤前に書類提出を済ませ、なんとか間に合わせることができました。

そして「今後、どのような形で、カンボジアと関わっていくのかを、カレッジで学び、考えたい」という私に、「ぜひそうしたらいいでしょう」と代表の小山内美江子さん (シナリオ作家) が言ってくれました。あの緊張の面接後、カレッジに入ってから驚き・考え・悩み・楽しみ・刺激を受けたり、とにかく充実の毎日でした。

*世界に目を開いたカレッジ

授業内容はカンボジア関連のみならず、地雷や人間の安全保障、物事のとらえかた、緊急支援、検事による講義、アフリカについて、地図から世界をみるなど、カレッジには、豪華な講師陣が幅広い分野から来校し、講義をされました。「1時間半でこんなに学んじゃった」でも、「もっと聞きたい、知りたい」と授業後はいつも、満腹感と空腹感の両方を感じることとなりました。

私はカレッジでの半年間の授業で、世界が急に近く感じ、地球は一つであるということを改めて実感した気がします。

*初めての現地研修・カンボジアでの感動

カンボジアの現地研修は仕事の都合上、後半からの参加となりました。初めていくバタンバン州では、観光地であるシェムリアップ州とは町並みだけでなく、貧しさも違うのだと実感しました。



日本では、どこに行っても欲しいものはすぐに入るし、道路もきちんと舗装されています。安全で美味しい水を得ることができます。学校で学ぶことができます。

カンボジアでは、それらを十分に受けることができない人々が大勢いました。そう思うとカンボジアの人は可哀相だな、と思いきやそうはなりません、そうではないことがよくわかりました。

カンボジアの人々は、どこへいっても笑顔でした。とても素直な笑顔でした。彼らの笑顔を見ていて、幸せってなんなんだろう。そう考えずにはいられませんでした。



JHPで建設したバタンバン州の小学校にて、子どもたちと

JHP・学校をつくる会 (JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER、代表・小山内美江子)。

カンボジアを主な対象国とし、「学校」や「教育」をテーマに、人道的な支援を志す若い人々が集まるNGO/NPOとして1993年から活動している。

これまでに250棟を超える小・中学校を建設。音楽や美術教師を200人以上育成し、各地の学校で情操教育の普及に当たっている。この他、トイレ設置、井戸堀、孤児院、児童養護施設の建設と運営も行っている。

詳しくは以下のサイトで<http://www.jhp.or.jp/index.html>

と同時に「この笑顔がいつまでも、続いてほしい」そう強く感じました。

*学校校庭にブランコをつくる

現地研修は、今までJHPが建ててきた学校の校庭に、ブランコをつくることも、大きなミッションです。貧しさのため、働き手となり学校に通えない子、遠方であるために通わなくなる子など、さまざまな理由で学校に通えない子どもたちがいます。

そんな子どもたちが「学校に行きたい」と思える状況を作ることが、改善の第一歩であるとの考えで、ブランコをつくりたい。カンボジアの子どもたちは、遊具など見たこともありません。私たちが作業していると不思議そうに、そして目をキラキラと輝かせながら、一体何ができるのだろうと見ています。

少し慣れてくると、ブランコづくりを手伝ってくれる子が、徐々に増えてきました。完成したときには、皆で声をあげて喜びました。ペンキを塗り終わって、帰国までの時間の猶予がなかったため、子どもたちがブランコに乗るところを見られずに別れてきたことが心残りです。でも、いつか必ず仲間とともに、その学校へ行きたいと思います。

そしてこの参加だけではなく、継続して長期的な支援を行っていくことが、私たちの目標です。(6面に続く)

*トンネルの先にもトンネルが

カレッジに通いはじめてからは、それまで以上に「自分は何がしたいのだろう。何ができるのだろう」と自問自答の日々が続いていました。しかし、カレッジで学び「教育」の大切さを改めて実感し、まずは自ら教育の現場に立ち学びたい。そして将来は、一人でも多くの子どもたちに学びの場を提供できるように、NGOで働きたい。そう思っています。



現在は幼稚園・小学校の教員免許を取得するため、通信で大学へ通っています。

カンボジアというトンネルを、一つくぐっただけで、さらに沢山のトンネルを見つけました。もっともっと、いろいろな世界を見ながら、我が日本についても、改めて学び直したいと思います。

左の写真はCMAC (Cambodia Mine Action Center/カンボジア地雷撤去をしている団体) の地雷撤去作業をしている地域にて

(編注) 根本晴美さんは、KIFAが昨年秋に開催した「小山内美江子講演会<愛を育てる>金八先生から世界へ——」の講演会場にご家族と聴講に来られ、小山内さんから紹介されました(講演会の要約はKIFAホームページ<http://www.kifa.gr.jp/>に掲載しています)。本稿は、広報委員会から「国際ボランティア」体験記の寄稿をお願いしたものです。

なお、根本さんは現在、東日本大震災の被災地に入りボランティア活動の日々を過ごしておられます。

●第12回日本語スピーチ発表会

KIFA研修部会が近隣市の主催する日本語教室に呼びかけ、ネットワークを作ってから21年になります。

合同会議を始め、日本語研修会、ボランティア養成講座へのお誘いなどの交流を行っています。柏市国際交流協会からは毎年、日本語スピーチ発表会の出場依頼があり、今年の2月27日の12回目の発表会には、KIFAから日本語講座の受講生で若い韓国女性、張智拏(ジャン・ジナ)さんが出場しました。

出場者は全部で23人。張さんは12番目の発表でタイトルは「日本の妖怪」。話の内容は独特なもので、とても聴衆の興味を引いたようでした。



スピーチ発表会に参加した皆さん

話すスピードや話し方も練習をした成果があって聞き取り易く、上がり性の彼女ですが落ち着いてスピーチできたようです。また一人ひとりのスピーチ終了後、出場者それぞれ

にあった質問のなかでも、彼女への質問が、比較的多かったが、しっかり聞いて答えられていて安心しました。ジャンさんからも他の出場者への質問が出て、その場の雰囲気を楽しんでいたようでした。

「日本の妖怪」

韓国出身、張智拏(ジャン・ジナ)

私は9カ月まえに、韓国からきましたジャン・ジナです。どうぞよろしくおねがいします。

私は日本の文化のなかでは、妖怪が一番好きです。日本の妖怪の話は日本の文学や映画にたくさん登場してきます。また、いろいろ商品化されて多くの日本人に愛されているようです。

たとえば、スタジオジブリのミヤザキハヤオさん多くの「もののけ姫」とか「せんとちひろのかみかくし」にもたくさんの妖怪が登場します。さらに、平安時代に実存したアベノセイメイという、おんみょうじについての漫画や小説や映画もたくさんあります。

妖怪のなかで、私はとくにミズキシゲル先生の「ゲゲゲのきたろう」が最も好きです。「ゲゲゲのきたろう」は日本の妖怪文化の中心にある重要な漫画です。この漫画には、主人公のきたろうを始めとして、おもしろくて変わった妖怪たちがたくさん出てきます。



そのなかで、私が好きなのは河童です。

河童は川に住む緑色の妖怪です。口は鴨のような口で、背中では亀の甲羅のようです。手と足には水かきをもっていて、皿を置いたような頭で、その皿がかわけば死んでしまうそうです。

そして河童は、きゅうりともちと相撲が好きで、力がとっても強い

そうです。それ以外にも、天狗やヤマンバや雪女など、性格や特徴が異なった数多くの妖怪がいます。

妖怪のような存在は日本だけでなく、世界各地にもいます。

妖怪は文化的な特徴と人々の意識が混合されて生まれた物で、その国を代表できるもののひとつだと思います。韓国にも角(つの)を持った日本の鬼のような妖怪がいます。

私はこれからも、いろいろな方法を通じて、日本の妖怪に接していきたいと思います。そうすれば、より関心をもって、日本の文化を勉強していけるのではないかと思います。

皆さんも妖怪に関心を持ってみてください。

3月11日に起きた東日本大震災では、鎌ケ谷市内も震度5弱（弱い）の地震となり、「生まれて初めての揺れを体験した」という人がほとんどでした。市内在住の外国人の皆さんには、とても怖かったことでしょう。

いつか起きるかもしれない大きな地震のために、外国人の皆さんへの避難（逃げる）方法などを、Q&A方式でまとめました。

◆生活のための情報◆

Q1：鎌ケ谷市に住むようになりました。生活情報を知るには、どうしたらよいですか？

A：市役所の市民課へ行くと「鎌ケ谷市ウェルカム・パック」という、4カ国語（英語、中国語、韓国語、ポルトガル語）のガイドブックをくれます。（持っていない人は、市役所でもらうことができます）このガイドブックには、ゴミの出し方、保険・年金についてなど、生活の相談窓口（相談する場所）が書いてあります。

また、ハザードマップ（災害が起きたときに危ない場所の地図）ももらえます。避難場所（みんなが逃げるところ）が書いてあります。

外国人の皆さんのための地震避難

もしものときの準備と避難（逃げ方）

◆災害が起きる前にしておくこと◆

Q2：東日本大震災のような、災害に備えておく（用意しておく）ことは、どんなことがありますか？

A：ガイドブックには「病気・事故・災害など緊急のとき」について書いてあります。

○地震の前に用意しておくこと①家の中で一番安全なところを調べておく②一人1日3リットル分の飲み水を

用意しておく③リュックや救急袋には懐中電灯、電池、飲み水、携帯ラジオ、お金など入れておく④リュックや救急袋の置く場所を家族みんなが知っておく。

○避難場所（みんなが逃げるところ）をみておく。

・ガイドブックには、市内の避難場所が書いてあります。避難場所は学校、保育園など、自分の住んでいる所から、一番近い避難場所をおぼえておきましょう。

○緊急連絡先（家族や病院、困ったときに相談するところ）の電話番号、住所と自分の病気や薬のことを書いたものを用意して、いつも身につけておきましょう。

○食べ物、飲み水を、3日分は準備しておきましょう。大きな災害が起きたとき、食べ物や飲み水が、手に入るようになるには、3日くらいかかります。

○住んでいるところの自治会に入って、家の近くの人たちと交流していると、いろいろな情報が入ります。

Q3：実際に大きな災害が起きたら、どうしたらよいですか？

A：①安全な場所、近くの避難場所に逃げる②場所は家族で決めておいてください。

◆安全対策に関する市役所の問い合わせ◆ TEL 047-445-1141

安全対策課（内線256、257）



ウェルカム・パックとハザードマップ

イベント開催のお知らせ

*恒例の「交流バスツアー」

- ・日時 9月25日(日) 都内周遊
ホテルでのランチバイキング、浜離宮恩賜庭園、フジテレビスタジオ見学、国会議事堂などを予定しています。募集の詳細は8月15日の市広報誌「かまがや」をご覧ください。

*英語でおしゃべり「英会話サロン」

- ・日時・会場 7月10日(日) 午後1時20分～4時
総合福祉保健センター6階
- ・参加費・会員 800円 非会員 1,000円

*キッズ「いろいろな国の言葉を楽しもう！」

- (多言語を楽しむ子どものイベント)
- ・日時・会場 8月29日(月) 中央公民館(予定)

緊張から笑顔へ

英会話講座・スマイリーキッズ

台風2号の小雨が降る5月28日(土)、今年も元気いっぱいの子供が集まり、英会話講座・スマイリーキッズがスタートしました。抽選で選ばれたAクラス(1・2年生)12人、Bクラス(3・4年生)12人、Cクラス(5・6年生)11人の合計35人の子どもたちが、ベテランのシナピ先生(A・Bクラス担当、ニュージーランド出身)と、新たにお迎えしたリチャード先生(Cクラス担当、イギリス出身)と一緒に楽しく英会話を学びます。

茂野昭会長のあいさつのあと、子どもたちは早速レッ

リチャード先生の生まれたイギリスについて学びました



スを開始しました。この日は都合によりリチャード先生が全クラスを担当。お手製のピクチャーカードを使って、初対面の子もたちと、ほとんど英語のみでコミュニケーションをとります。

まず、リチャード先生が育ったイギリスとは、どんな国なのか、国旗カード、世界地図、実物のポンド紙幣や硬貨、エリザベス女王や2階建てバスの写真、代表的な風土料理の写真を示しながら、子どもたちに説明します。

世界地図に馴染みのない低学年の子どもたちも、本物のお金を手に取ってみて、外国ではお金も違うのだということを実感します。また、先生の故郷、北アイルランドに住む家族についても写真を見せて紹介します。

先生の家族を紹介した後は、「自己紹介ゲーム」です。それぞれ5枚ずつ自分の名刺を作り、1対1で向き合っ

て、お互いに自己紹介した後、じゃんけんをして負けた方が勝った方に名刺を渡し、最終的に手元に集まった名刺の数を競うゲームです。Hello! My name is ~. Nice to meet you! と何度も繰り返します。少し緊張気味の子もたちも、自己紹介を繰り返すうちに、紹介フレーズがスムーズに言えるようになり、自然とクラスメイトともうち解けます。Bクラスでは、さらにWhat is your name? のフレーズも学びます。

高学年のCクラスでは、その他に、How are you?

I'm ~. というやりとりまで進み、自分の様子を伝える言葉をビンゴゲームにして覚えます。

来年2月の閉講式まで全25回のレッスンを通じて、子どもたちも保護者同士も、笑顔いっぱいの講座になるでしょう。



初めは自己紹介ゲーム会話です

民館が使えなくなり、3月に唯一行われていた「外国人のための日本語講座」がしばらく中止になりました。外国人受講生への連絡は、講座のボランティアによる緊急連絡となりました。このような緊急の情報は年4回定期発行の広報誌では間に合いません。しかし、今号の7面に掲載した「外国人のための防災」のように、恒常的に役立つ広報は、外国人ばかりでなく、市民にも役立つ情報発信として、大切な役目ではないかと思えます。

インターネットやホームページ、端末情報機器が普及している今、KIF Aとしての広報の役割は何かを、改めて考えてみたいとも思っています。

編集後記

11年ぶりに広報委員会活動にも関わることになった藤本克代です。以前に所属したのは、消滅の危機にあった広報部会の再生策として、各部会からも必ず委員を派遣するという会則に変更された初年度のことでした。近年は広報誌「KIFAPLaza」に携わる委員の尽力で生き生きと、ていねいに情報を発信し、現在に至っていることを嬉しく思っていました。

KIF Aの広報活動としては、一人でも多くの人に関心を持っていただき、総会をはじめ、国際交流につながる事業への参加を促す情報発信が主たる目的です。その他、東日本大震災と福島原発事故による電力事情のため、夜の公